



三井生命厚生事業団編

「成人病ガイド」シリーズ

近年わが国においても、がん、高血圧、脳卒中、心筋硬塞などの成人病が社会問題としても大きく取扱われているが、標題の小冊子は毎日新聞社の協力のもとに、三井生命厚生事業団より次の如く発行されている。

第1号「心筋硬塞と狭心症」、第2号「肺がん」、第3号「高血圧」、第4号「胃がん」、第5号「糖尿病」、第6号「乳がん」、第7号「腎臓病」、第8号「歯槽膿漏」、第9号「脳卒中」、第10号「痛風」、第11号「肝炎」、第12号「前立腺肥大」、第13号「動脈硬化症」、第14号「関節炎」、第15号「脳卒中のリハビリテーション」、第16号「心筋硬塞のリハビリテーション」、第17号「胆石症」、第18号「胃潰瘍と十二指腸潰瘍」、第19号「成人病の予防と対策」、第20号「白内障と緑内障」、第21号「高齢者の結核」、第22号「子宮がん」、第23号「大腸のがん」。

以上が既刊分（B6版 各冊平均30頁ぐらい）であ

るが、今後発行を予定されているものとして肺気腫と慢性気管支炎、貧血症、更年期障害、甲状腺の病気等を用意しているそうである。

以上の各号はいずれも著名なる専門家の執筆によるものであるが、素人向きにわかりやすく工夫をこらして懇切丁寧に疾病予防、診断、治療、リハビリテーションについて解説されており、週刊誌を見るような軽い気持ちで読めるところが多忙な者には有難い。

我々 PT、OT にとっても臨床場面において、障害者より疾病に関する様々な質問にでくわす場面でこの小冊子を大いに活用できるのではなかろうか。

既刊分を希望される方は、号数、住所（郵便番号）、氏名、年齢、職業を記入のうえ、1冊につき切手50円分を添えて、東京都千代田区大手町1-2-3、財団法人三井生命厚生事業団へ申し込めば送ってくれる。

（三重県立高茶屋病院、作業療法士 大橋 博）

“Feeding Behavior of Infants”

by Arnold Gesell & Frances L. Ilg

1937年版であるから非常に古い本である。しかし私はこの本を探しあてたとき、強い感銘を受け、いままでこの本を知らずに過ぎたことを残念に思い、多くの人に知らせてまわりたいような気持ちになったことをおぼえている。

当時私は、幼少の脳性まひ児で1人で食べることはおろか食べさせてもらうのさえうまくいかない子どもを1人受けもち、多くの難題に直面していた。いったい“正常”な子どもは、どのような経過をたどって“食べさせてもらう”ことに上達し、また“自分で食べる”ようになるのか？ 食事時の姿勢はどのように変化し、顎や口唇や舌や手の使い方はどのような変化をたどるものなのか？ そのとき私は、これらのことを切実に知りたいと思い、そしてそれに答えてくれたのがこの本だったのである。

これは Gesell と Ilg が、数人の子どもの食事行動をフィルムで追跡しつづけて、その成果をもとに著した本である。構成は、第Ⅰ部：栄養摂取の行動的側面、第Ⅱ部

：食事行動の成長課程、第Ⅲ部：食事行動のしつけ、となっている。とくに第Ⅱ部は、生下時から2才までの、乳首または哺乳びんへの対応、カップへの対応、スプーンへの対応、の発達経過がまとめてあり、続いて食事行動パターンの成長の項では、食事の前、最中、後の表出行動、口唇の行動、舌の行動、頭の行動、手の行動のそれぞれの成長過程が、豊富な写真とともに示されている。142～144頁の「成長の示標」は、診断的利用価値があらう。

この本のもう一つの価値は、それがすぐれた観察記録の実例だという点にある。よい観察がいかに多くのものをもたらすかをあらためて感じずにはいられない。

国内の医学図書館系でこの本を所有しているのは、阪大医学図書館だけだそうである。たいていの医学図書館なら、頼めばとりよせて貸してくれると思うが、貴重な1冊であるから、くれぐれも大事にしたいものである。

（Lippincott, 180頁, 1937）

（東京都老人総合研究所、作業療法士 鎌倉 矩子）